



大分の青少年



大分県青少年健全育成大会



第38回大分県少年の船運航事業



第39回少年の主張大分県大会



中学生・高校生地域リーダー研修会

INDEX

- ② 大分県青少年健全育成大会／子供と家族・若者応援団表彰（内閣府）
- ③ 第39回「少年の主張大分県大会」
- ④ 第38回「大分県少年の船」運航事業／地域活動事例発表会
- ⑤ 県民会議加盟団体の活動
 - ・公益財団法人 大分県体育協会
 - ・公益財団法人 大分県交通安全協会
 - ・公益社団法人 日本青年会議所九州地区大分ブロック協議会
- ⑥ 市町村民会議の取り組み（宇佐市、国東市、姫島村）
- ⑦ 市町村民会議の取り組み（津久見市、由布市、九重町）
- ⑧ 高校生ICTカンファレンス／携帯・ネット利用に関する保護者向け啓発講座
- ⑨ 青少年のネット利用実態調査
- ⑩ 「大人が変われば子どもも変わる」県民運動／中学生・高校生地域リーダー養成研修
- ⑪ 「大分県青少年育成県民会議」への加入のお願い／自死遺児救済援護事業のお知らせ
- ⑫ 大分県からのお知らせ 大分県子ども・若者支援地域協議会／青少年自立支援センター

平成29年度 大分県青少年健全育成大会

子ども・若者育成支援強調月間の11月10日（金）、大分県青少年育成県民会議の会員団体、青少年育成支援団体など青少年の健全育成に関わる関係者約160人の参加の下、大分県青少年健全育成大会を、トキハ会館ローズの間にて盛大に開催しました。

式典では、二日市具正副知事の挨拶の後、小手川和彦副会長から大分県青少年育成県民会議会長表彰として4名2団体に表彰状が授与されました。また、受賞者を代表して前大分県保護司会連合会副会長 鶴田良人さんが感謝の言葉を述べられました。

次に、今年度の少年の主張大分県大会で最優秀賞を受賞した池田陽呂さん（九重町立ここのえ緑陽中学校3年生）が受賞作である「責任を持って」を発表し、大分県青少年育成アドバイザー協議会会長三浦啓亨氏は「大分県アドバイザー協議会が目指すもの」と題し、これまでの活動実績や今後、大分県青少年育成アドバイザー協議会が実施していきたい事業などについて発表がありました。

休憩を挟んで、日常生活でなくてはならない情報端末となったスマートフォンの適正な利用について、特定非営利活動法人 企業教育研究会事務局長 市野敬介氏を講師に招き、「みんなで考えよう！ケータイ・スマートフォン」と題する講演会を開催しました。

市野氏からは、青少年を取り巻く大きな課題の一つとなっている携帯電話、スマートフォンの適正利用に関して、統計データを示しながらわかりやすく、そして楽しくご説明いただきました。

少年の主張の池田陽呂さんの「一人ひとりがSNSに関して責任を持ち、正しく使えるようにしていきたい。」という意見発表と併せて、若者の視点、大人の視点双方からこの問題を再認識することができ、参加者には大変好評でした。



二日市副知事の挨拶



受賞者の皆さん



池田陽呂さんの発表



大分県青少年育成アドバイザー協議会
三浦会長からの活動報告



企業教育研究会 市野敬介氏の講演

子供と家族・若者応援団表彰（内閣府）

子どもたちの健全育成や子育て支援に功績のあった団体や個人に贈られる内閣府の「子供と家族・若者応援団表彰」の平成29年度の実績者が決定され、大分県からは津久見市の「特定非営利活動法人きらり・つくみ」が、子供・若者育成支援部門で内閣府特命担当大臣表彰を受賞しました。

「きらり・つくみ」は、2003年から津久見市の無垢島で生物や環境、天体、地質などを学ぶ自然体験学習に取り組んでおり、この活動を通じ子どもたちの大きな夢・自由な発想・豊かな心を育ててきたこと等が評価され、今回の受賞となりました。



第39回 ー今、中学生が訴えたいことー

少年の主張

大分県大会



39回目を迎えた今年の「少年の主張」には、県内21校から929人の応募がありました。平成29年8月25日、九重文化センターを会場に開催された大分県大会では、第一次・第二次審査を経て選ばれた10人の中学生が大勢の聴衆の前で発表しました。発表者はそれぞれ、日常や学校生活の中で体験したことや感じたことなどを基に、さまざまなテーマで自分の考えを聴衆者に熱く伝えていました。

大会発表者作品

※学年は大会当時

- | | |
|---|--|
| <p>最優秀賞</p> <p>◆「責任を持って」
池田 陽呂 (九重町立このえ緑陽中学校3年)</p> <p>優秀賞</p> <p>◆「信頼」 松岡 都祈 (竹田市立竹田南部中学校2年)
◆「努力が実った日」
橋本 大志 (九重町立このえ緑陽中学校2年)</p> <p>優良賞・大分県教育長賞</p> <p>◆「父の死から学んだこと」
染矢 一樹 (佐伯市立佐伯南中学校3年)</p> <p>優良賞・共感賞</p> <p>◆「『個性』はつukれない」
古門 美羽 (宇佐市立北部中学校3年)</p> | <p>優良賞</p> <p>◆「誰もが必要とされる社会に向かって」
岡方 望美 (宇佐市立院内中学校3年)</p> <p>◆「夢、すべての子どもが輝くために」
馬場 七海 (竹田市立直入中学校3年)</p> <p>◆「頑張っている人にエールを！」
高志明日香 (佐伯市立佐伯南中学校2年)</p> <p>◆「私達の海はどこへ向かうのか」
西田佳乃子 (宇佐市立北部中学校3年)</p> <p>◆「とあるオタクの偏見事情」
工藤 陽菜 (玖珠町立北山田中学校3年)</p> |
|---|--|

作品介绍 第39回「少年の主張大分県大会」最優秀賞



「責任を持って」

九重町立このえ緑陽中学校 3年
池田 陽呂

「ちょっと勉強できるからって調子にのってんじゃねえよ。」

自分に対するこんな書き込みをみつけてしまったらどうするだろう。かなりショックで立ち直れないだろう。僕たち生徒会執行部が中心になって上演した人権劇「魔術」の中で僕はこの台詞をしゃべりながら、考えてしまいました。

「ラインっていつやめていいかわからん。」

こんなつぶやきが、休み時間の会話の中でよく聞かれるようになりました。僕も母のスマホを使ってラインをしているので、同じように感じていました。友だちと夜遅くまで会話やゲームをして、睡眠時間や勉強にも影響が出ることもありました。

そんな時、生活委員から、僕たち執行部に相談がありました。学校が行ったSNSの使用に関するアンケート結果を見て、問題があると思ったので、自分たち生徒自身の手で何とかできないだろうかというものでした。生活委員としては、自分たちで自主規制ルールを作りたいたいという内容の相談でした。アンケート結果を見ると、やはり夜遅くまで友だちと会話をしているようでした。友だちからのラインが来たらすぐに返さないといけないので困っている。寝たいけどいつ会話をやめていいかわからない。タイムラインの一言が自分に対して言われているようで気になる、など多くの人が困っている様子が分かりました。

生活委員の中で議論を重ねてできたルールは、「夜九時以降はSNSやゲーム、メールのやりとりはしない。SNSやライン、ネット上へ個人的な画像や動画、悪口を書き込まない」というものでした。今までのPTA指導部から出されていたルールは、夜十一時

以降使用をやめるといったものだったので、果たしてこのルールがみんなに受け入れられるか心配でした。反論が出たり、議論になったりするのではないかと、ある程度覚悟していました。しかし、生徒集会の場で、困っている人がたくさんいること、自分たちの学習環境のためにも自主規制が必要だということを訴えると、反論もなく無事提案は承諾されました。

でもこのルールが実際に家で守られているかどうかの確認は難しいです。また、もしかしたら、反論がなかったのは、黙ってやればわからないと思っている人もいるのかもれないという意見も出てきました。そこで、僕たち執行部と生活委員の話し合いの結果、保護者にも協力してもらおうということになり、このルールをPTAの臨時総会で提案することにしました。僕たちが自主規制ルールを作り、生徒全員に承諾されたので、家庭でもぜひ協力をお願いしたいと訴えました。保護者からはすぐに承諾をしてもらうことができ、肯定的な意見ばかりをもらいました。

ところが、ある学年でいじめに近い気になる書き込みがあったと聞きました。その書き込みがネットいじめにつながらないよう、僕たち執行部を中心に、人権集会でネットいじめをテーマにした「魔術」という作品を上演しました。ネットに書き込みをしまし、あとで消そうとしても一度書き込んでしまったものは消せないというハッピーエンドではないエンディングでした。主人公の最後の台詞が「私どうしたらいいの。どうしようもないんだね。」というもので、続きは劇を見たそれぞれの人たちに考えてもらいます。書き込んでしまったものは決して消せない。書き込む前によく考えてほしいという僕たちの思いが伝わったかどうかは分かりませんが、感想を読むと、少なからず何人かの人の心を動かすことができたと思います。SNSは便利な道具ですが、使い方次第では凶器にもなります。このような取り組みの積み重ねで、一人ひとりがSNSを、責任を持って正しく使えるようにしていきたいです。

第38回「大分県少年の船」運航事業

大分県の明日を担う青少年の健全な育成を図るため少年の船を運航し、学校や家庭では体験できない船内外での研修及び集団生活を通じて、青少年の社会性を養いながら、生きる力を育むことを目的に、昭和55年から運航しており、今回で38回の運航となりました。

大分県少年の船運航期間中は天候にも恵まれ、船内活動をはじめ、沖縄での海水浴や平和学習など現地研修を予定どおり実施することができ、無事4泊5日の航海を終えることができました。

日程

事前研修 7月1日(土) 大分銀行ドーム
 本研修 7月22日(土)～26日(水) 沖縄県
 事後研修 10月9日(月) 大分銀行ドーム

参加者

小学生(団員) 459名
 中学生(副班長) 40名
 高校生(班長) 40名
 成人(スタッフ) 59名 計598名

活動内容

船内では、「少船わくわく広場」や「びいなすカップ2017」などを通して、友情や絆を深めることができました。また、沖縄の現地学習では「大分の塔」での慰霊祭や「ひめゆり平和祈念資料館」見学などを行い、平和の大切さを学びました。



大分の塔での県出身兵士への慰霊



びいなすカップ2017

地域活動事例発表会の開催

今年度初めて、地域活動を通じて高校生等の社会貢献意識の醸成を目的として、大分県少年の船班長、副班長、団員経験者をメンバーとするグループによる地域活動事例発表会が開催されました。

各グループの代表者から、活動に取り組んだ動機、活動内容、反省点及びチャレンジ宣言としてこれからの想いについて発表されました。活動事例の発表ごとに、ロコログ代表佐藤哲也さんから、発表方法及び活動内容に対する技術的なアドバイスやこれからの活動への期待が寄せられました。

各グループとも、短期間とは思えないほど充実した活動内容があり、発表会傍聴者からは、「とてもよかった。高校生だけでなく大人も頑張らねば」などの意見が寄せられました。

発表グループ

- ・大宮町すずめの学校と敬老会を盛り上げる (日田市 代表者 森 一博さん)
- ・おおいた森の探検隊 (大分市 代表者 森 天音さん)
- ・子どもガイドOMOTENASHI 隊 (宇佐市 代表者 大西 花芽さん)
- ・朝日校区運動会を楽しむ会 (別府市 代表者 渡邊 もかさん)
- ・楽市楽座を広めよう (中津市 代表者 若山 朱里さん)
- ・エコ自転車、発見隊 (大分市 代表者 常盤 優衣さん)



グループ代表者の皆さん



グループ代表者による発表



佐藤哲也氏によるアドバイス

県民会議加盟団体の活動

公益財団法人 大分県体育協会

問い合わせ先 097-504-0888 月～金 9:00～17:45

公益財団法人大分県体育協会は、スポーツを振興し、県民の体力向上とスポーツ精神の養成を通じて、心身の健全な発展を図ることを目的として設立された団体です。

主な活動には、国民体育大会や九州ブロック大会等の各種スポーツ大会に関する競技力向上に対する助成並びに指導者の資質向上等を図る事業や、スポーツを通じた青少年の健全育成を図るため、日独同時交流事業や各競技別交流大会などのスポーツ少年団事業があります。特にスポーツ少年団には、平成29年9月現在、588団、14,415名の団員・指導者が登録しており、全国で登録者数が減少する中、大分県は増加している状況です。

また、「多世代」・「多種目」・「多志向」をキャッチフレーズに地域に根ざした活動を展開する総合型地域スポーツクラブの育成支援事業などにも取り組んでいます。

本会の事業等に関心のある方は、お気軽に本会事務局までご連絡ください。



「笑顔つなぐえひめ国体」
総合開会式前の大分県代表団



平成29年度大分県総合型地域スポーツクラブ交流会

公益財団法人 大分県交通安全協会

問い合わせ先 097-532-0815 月～金 9:00～17:45

公益財団法人大分県交通安全協会は、悲惨な交通事故を1件でもなくするため県下各地で交通安全教室の開催や街頭での広報啓発活動等、各種交通安全活動を行っています。

特に幼児や小学生を対象とした交通安全教育に力を入れています。本会の職員である交通指導員が小学校等に出向き、基本的な交通ルールや交通マナーを習得させることを目的に、校庭で横断歩道の安全な渡り方や自転車の安全な乗り方の実技指導、あるいはプロジェクターや腹話術を使った交通安全講話等を行っています。

(年間約800回開催、延べ40,000名の子どもが受講)

この交通ルールや交通マナーの習得を通して、子どもたちの「相手を思いやる心」を育むとともに、交通事故被害者等の痛みを思いやり、「交通事故の被害者にも加害者にもならない意識」を育てています。



横断歩道の安全な渡り方指導



交通安全教室の状況

公益社団法人 日本青年会議所九州地区大分ブロック協議会

問い合わせ先 097-537-1623 月～金 9:00～17:00

1949年、「明るい豊かな社会」の実現を理想とし集った青年有志により、東京青年商工会議所の設立から日本の青年会議所運動は始まりました。

共に向上し合い、社会に貢献しようという理念のもとに各地に次々と青年会議所が誕生し、1951年には総合調整機関として日本青年会議所が設けられました。次代の担い手たる責任をもった20歳から40歳までの指導者たらんとする青年の団体です。

大分県に8つある青年会議所の協議会である大分ブロック協議会は、昨年50年の節目を迎え、西貴之前会長のもと大分県下340名の同志と共に「新たな時代を切り拓き未来へ希望溢れる大分の創造」をスローガンに活動してまいりました。より良い社会づくりをめざし、ボランティアや行政改革等の社会的問題に積極的に取り組んでまいります。

協議会では同世代の同志と共に、ふるさと大分の未来について真剣に考えるメンバーを広く募集しております。お気軽にお問い合わせください。



第50回大分ブロック大会in別府



例会の状況

市町村民会議の取り組み

1 宇佐市 (宇佐市青少年健全育成市民会議)

宇佐市では、市内7中学校区ごとに組織された地区青少年健全育成協議会(年3回)を中心に、自治会や地域団体(老人会、まちづくり協議会等)・PTAが協力しながら、地域内の定期的なパトロールや児童の登下校時の見守り、世代間交流などそれぞれの地域に根ざした活動を学校・家庭・地域が相互に連携しながら行っています。平成29年度宇佐市青少年健全育成市民会議では、NPO日本交流分析協会交流分析指導士の武田久美子氏を講師に迎え青少年健全育成関係者に向け交流における知識や重要性を再認識してもらうとともに青少年との交流に対する意識強化を図る講演を実施しました。今後も地域・家庭が一体となって、青少年の成長を支援し、各地区における積極的な体験活動の推進をしていきます。



青少年健全育成市民会議総会



総会での講演の様子

2 国東市 (国東市青少年健全育成市民会議)

国東市青少年健全育成市民会議では、様々な取り組みを行っています。例として、夏には「少年の船 くにさき交流会」を開催しています。その年の参加団員と過去に参加された団員との交流を通して、「大分県少年の船」に参加するにあたっての心得、楽しみ方など、参加経験のある人にしかできないアドバイスを受けることができ、充実した5日間を送るための貴重な機会となっています。

また、冬には「くにさき探検隊」と題し、九重森林公園スキー場でのスキー教室、九重青少年の家での宿泊体験等を行っています。近年、子どもは健全な体と心を作るための体験活動が不足しているという指摘があります。野外体験を通じ、自然を愛する心を育てるとともに、子ども達が主体的に判断・行動し、健康で豊かな人間性を育み、青少年が健全に育つことを支援していきます。



大分県少年の船くにさき交流会



くにさき探検隊スキー教室

3 姫島村 (姫島村青少年健全育成村民会議)

姫島村青少年健全育成村民会議では、「島の自然や文化、人と人とのふれあいを通じて、心身のたくましさや社会性、豊かな人間性を培うことができるように」という理念のもと、学校・家庭・地域が協働し、参加体験学習等を実施しています。

事業の一環で「ふるさと教室」と題して、中学2・3年生を対象に「姫島盆踊り」の伝統踊りや盆太鼓、盆唄を地域の方の指導のもと練習を行い、実際に盆踊りに参加します。中学校卒業後も各地区の盆行事で活躍しており、年々減少している太鼓の叩き手や唄い手を担い、地域貢献にもつながっています。

今後も、地域の協力を得ながら青少年の健全育成活動に取り組み、次代を担う青少年の成長を支援してまいります。



ふるさと教室



姫島盆踊り



4 津久見市 (津久見市青少年健全育成市民会議)

津久見市青少年健全育成市民会議では、青少年を取り巻く様々な社会問題の解決を目的として、子どもたちの見守りと健やかな心の育成に向けた大人の意識醸成のための活動を行っています。毎年開催している総会では、前年度の事業報告のほか、青少年健全育成に関わる有識者を招聘して講演会を実施しています。また、今年度は災害のため実施できませんでしたが、例年11月には「子どもの安全を考える市民講演会」を福祉部局と共同で開催しています。

定期的な取組としては、毎月第3金曜日に市内21箇所において、あいさつ運動を実施しています。市内各学校の教員や生徒、PTA等の各委員、区長等を中心とした約120人が参加しており、地域住民が一体となって子どもたちの見守りをしています。



市民会議 講演の様子



あいさつ運動

5 由布市 (由布市青少年健全育成市民会議)

由布市青少年健全育成市民会議は挾間・庄内・湯布院の3支部で構成されており、各支部で特色ある活動を通して日々健全育成活動に取り組んでいます。

日頃からの街頭指導活動やあいさつ運動の中で地域の子どもたちを見守りつつ、子ども相撲大会や球技大会、清掃活動等に積極的に参加することで、大人から子どもまで幅広く地域の交流ができるよう努めています。

また、先の熊本・大分地震を受けて、防災講演会や地震体験といった防災に焦点を当てた事業を今年度から始めました。その他にも、各支部が集まって共通の健全育成テーマについて考える交流研修会を実施するなど、全体で一丸となって活動に取り組めるような環境づくりにも励んでいます。



挾間支部防災研修



交流研修会

6 九重町 (九重町青少年健全育成協議会連絡会)

九重町青少年健全育成協議会連絡会は、健全な青少年の育成のため、ここのえ緑陽中学校での月1回のあいさつ運動のほか、ここのえ子育て交流センターや保健師と連携し、中学3年生を対象とした「乳幼児ふれあい事業」や、イベントに合わせた啓発活動を実施しています。また、町内4地区ごとに組織された各地区育成協の連絡調整を行っています。

地区育成協では、小学校単位でのあいさつ運動やジュニアリーダーの育成など、独自の取り組みを積極的に行っています。

東飯田地区では、毎年、地区育成協が中心となり実行委員会を立ち上げ、公民館を拠点に「通学合宿」を開催し、今年度で12回目を数えます。実行委員のメンバーには地区の大人が加わり、地域と子どもたちとのつながりを深める取り組みを実施しています。



乳幼児ふれあい事業



東飯田通学合宿

高校生ICTカンファレンス

平成29年8月27日（日）、大分県消費生活・男女共同参画プラザ（アイネス）で、「高校生ICTカンファレンス2017in大分」が開催されました。これは、ネットやスマホの安心・安全な利活用について、高校生自らが考え議論するものです。

県内から14校47名の高校生が参加し、学校の垣根を越えたグループ討議・発表を行いました。

今年のテーマは「高校生が考える心豊かな生活～ ICT×（家族・学校・地域）～」ということで、審査の結果、大分東明高等学校2年の鶴田桃子さんが県代表生徒に選ばれました。鶴田さんは、11月3日に東京で開催された全国サミットに出場し、全国の代表生徒との討議に参加してグループの中心として活躍しました。



全国大会で活躍する鶴田さん（中央）

○高校生ICTカンファレンスとは

高校生ICTカンファレンスは、2011年度に大阪でスタートしたもので、大分県は2013年度から開催しています。ネットやICTを利用する当事者の高校生の意見を国の機関に届けるために全国サミットで提言をまとめて、ファイナリストに選ばれた高校生が関係府省庁で発表を行うものです。

○高校生ICTカンファレンス開催の目的

- (1)学校の垣根を越えて話し合うという経験の中で、様々な考え方に触れ、「考える、まとめる、聞く、話す、見せる、伝える」などの体験の重要性を実感する。
- (2)スマホやネットを安心・安全に使うために、高校生として情報モラルについて自ら深く考え学ぶ姿勢を身につける。



大分県大会の参加生徒（今年度）

携帯・ネット利用に関する保護者向け啓発講座 （インターネット出前講座）

大分県青少年育成県民会議では、ネット利用によるトラブルから青少年を守るため、LINE株式会社、株式会社ドコモCS九州、KDDI株式会社九州総支社、ソフトバンク株式会社の協力により「携帯・ネット利用に関する保護者向け啓発講座（インターネット出前講座）」を実施しています。PTAや公民館等の研修でぜひご活用ください。

29年度は16講座で1,391名が受講（平成30年2月末現在）しています。

内容

携帯電話（スマートフォン）・ネット利用に係るトラブル事例とその解決方法等について、学校やPTAが行う保護者向け研修や市町村PTA連合会、青少年育成関係者等が対象の研修に講師（携帯電話事業者）を派遣します。

主なトラブル事例

- ・ ネットいじめ
- ・ 個人情報やプライベートな画像の流出
- ・ 長時間利用（ネット依存）
- ・ 高額請求（ワンクリック詐欺）

問い合わせ・申し込み先

詳しくは大分県青少年育成県民会議事務局 **TEL.097-506-3076 FAX.097-506-1745** にお問い合わせください。

申込書は「大分県青少年育成県民会議」のホームページからダウンロード可能です。



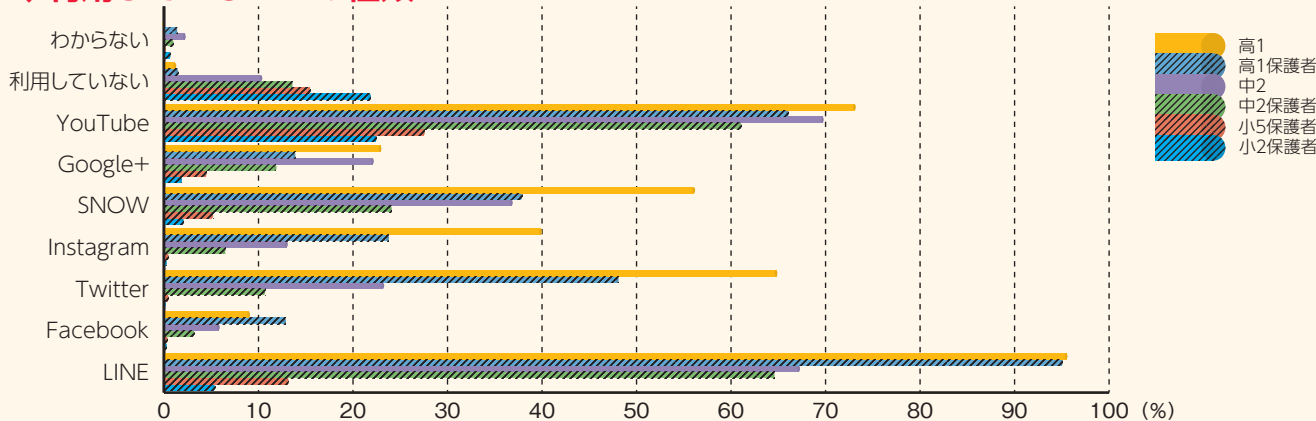
青少年のネット利用実態調査



平成29年11月、大分県では県内の小学生（小2、小5）、中学生（中2）、高校生（高1）の児童生徒及びその保護者を対象にインターネットの利用状況等に関する調査を行いました。（約9,000人から回答）

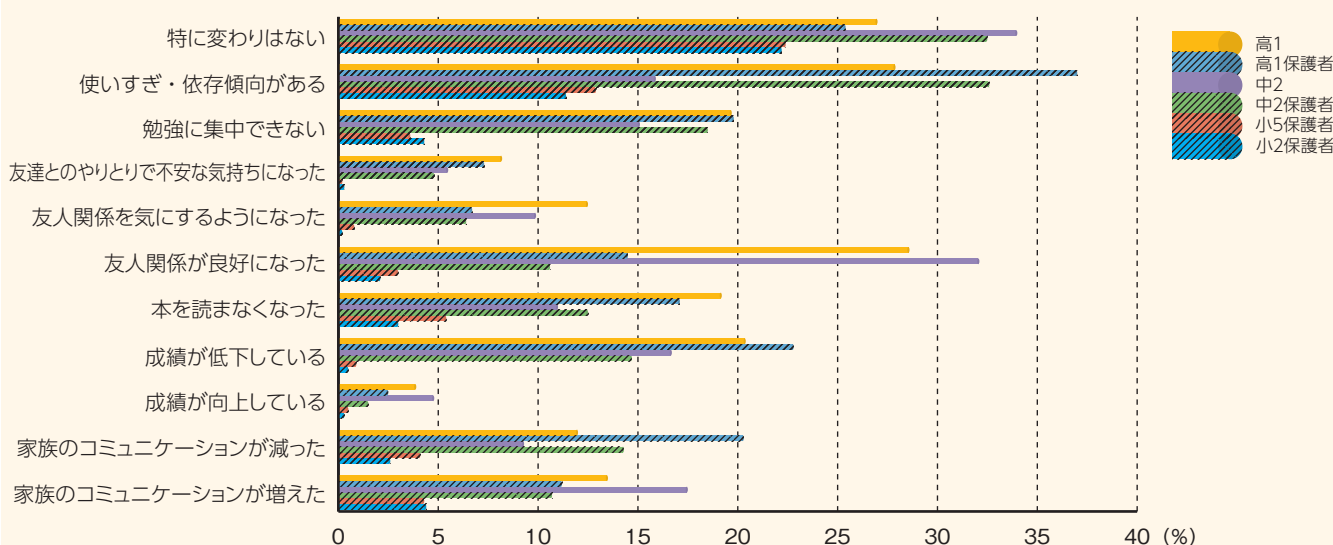
以下は調査結果の一部ですが、全体的に言えることは、インターネット利用について保護者と子ども達との間には利用の認識において大きなギャップがあることが分かります。

◆利用しているSNSの種類



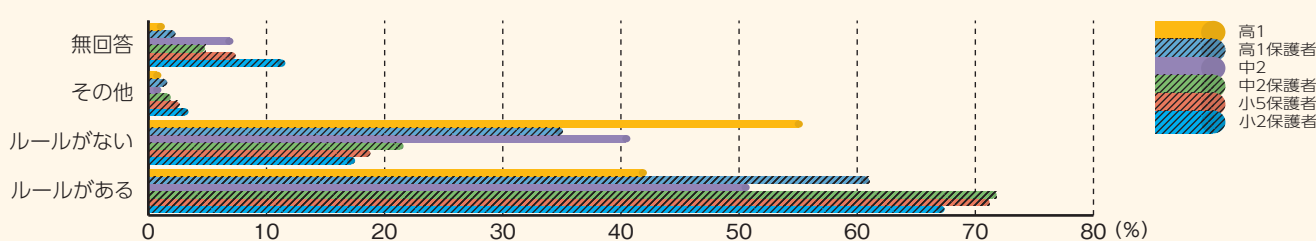
「Twitter」では、高校生が 16.8 ポイント、中学生が 12.6 ポイントそれぞれ保護者より多く利用しています。

◆ネット利用による生活の変化



「友人関係が良好になった」では、高校生が 14.1 ポイント、中学生が 21.5 ポイントそれぞれ保護者より良い傾向と回答しました。

◆家庭でのルールの有無



「家庭でのルールの有無」では、高校生が 14.1 ポイント、中学生が 21.5 ポイントそれぞれ保護者よりルールがあると感じていません。

「大人が変われば 子どもも変わる」県民運動



～子どもは社会(あなた)を映す鏡です～

県・大分県青少年育成県民会議では、大人がお手本を示す「大人が変われば 子どもも変わる」県民運動に取り組んでいます。特に、「県民総ぐるみあいさつ運動」と「公共マナー向上運動」に力を入れています。

あいさつは人と人をつなげる大事な出会いの言葉です。あいさつ運動を通して子ども達の社会性を育むとともに、子ども達は地域で守り、育てるという意識の高揚を図るため、毎月第3金曜日の「青少年の日」には、県内各地であいさつ運動を行っています。



JR大分駅



福徳学院高等学校の生徒さんとめじろん

また、毎年7月と11月にはJR大分駅などで、多くの方の協力のもと大規模な街頭啓発活動を展開しています。

公共マナー向上運動は、大人自身がマナーについて考え、自らの襟を律して子どものお手本になろうというものです。取組としては、電車に乗車して、「歩きスマホ」等のマナーについて啓発しています。

県民の皆さま方も、この趣旨にご理解いただき、身近のできることから取り組んでください。

中学生・高校生地域リーダー養成研修

平成30年2月4日(日)に「中学生・高校生地域リーダー養成研修」を県庁舎本館正庁ホールで開催しました。本研修は、中学生・高校生の社会参画を促進するため、コミュニケーション力、企画力、協働力等地域で活動するための考え方やスキルを身につけることを目的として、大分県青少年育成県民会議が主催して実施したものです。

当日は県内の中学校7校、高等学校13校から35名が参加し、班単位で熱心に研修に取り組みました。午後からのフィールドワークではそれぞれが魅力的なスポットを訪ね、個性豊かな商店主等へのインタビューを行いました。その後、取材した内容を記事にまとめ、お互いに読みあい、地域を見つめる視点や考え方を交流しました。

今回の研修成果を参加者自らが暮らすまちへとフィードバックし、各地域で生き生きと活躍してくれることを期待しています。

主な活動プログラム

- 午前：「地域を活性化するローカルメディアの重要性」(講義)
- 午後：「おおいたまち歩き」(演習)
 - ※大分市中心街の6箇所地域振興に熱心に取り組む地域リーダーへインタビュー
 - 「ミニフリーペーパー作成」(演習)
 - ※地域の魅力を個人ごとに記事にまとめました。
 - 「ミニフリーペーパー作品発表会」(交流)



参加者の感想

- 自分が思っていることとは違う発想で大分市の魅力を見つけることがおもしろかった。今まで気がついていないだけで大分には隠れた魅力があることがわかった。また、研修を通して違う意見を認めあう大切さも理解できた。
- 本気で、本音で話してくれる大人がいることを知ることができた。自分の価値観やものの見方が変わった。来年も参加したい。
- 中学生や高校生、そしてリーダーの大学生と様々な年齢の意見を聞くことができたのがよかった。
- 情報を見極めて、その情報を発信する力が身につきました。自分の将来に役立つと思いました。

「大分県青少年育成県民会議」への加入のお願い

大分県青少年育成県民会議とは

県内市町村民会議をはじめ企業、団体等の110団体で構成されています。

県内の青少年が地域や社会の一員として主体的に未来を切り拓いていく資質を身につけ、自立を達成できるよう、「非行・被害防止と有害環境対策の推進」、「体験活動の推進」、「普及啓発と県民運動の推進」3つを重点目標に掲げ、家庭・地域・学校が一体となった青少年健全育成県民運動の一層の推進を図ることを目指しています。

加入のお願い

現在、社会の急速な変化の中で、青少年の非行や被害だけでなく、ニート、ひきこもり、インターネットによる有害情報の氾濫など、青少年をめぐる多くの課題が山積しています。

このような状況を少しでも改善し、将来の大分県を担う青少年が健やかに成長していけるよう、県民総ぐるみで青少年の健全育成に取り組んでいかなければなりません。

そこで、この活動の輪をさらに広げるために、一緒に活動に参加していただいたり、趣旨に賛同していただける企業や団体の皆様のご加入をお願いいたします。

加入のしかた

大分県青少年育成県民会議事務局へご連絡いただいた後、「加入申込書」を送付いたしますので、ご記入のうえ提出をお願いいたします。詳しくは「大分県青少年育成県民会議」ホームページをご覧ください。

会費

正会員 年間3,000円 賛助会員 年間5,000円

事務局

大分県生活環境部私学振興・青少年課内
TEL：097-506-3076 FAX：097-506-1745
E-mail：oita.patrol@gmail.com

大分県青少年育成県民会議

検索



◆ 自死遺児救済援護事業のお知らせ ◆

大分県青少年育成県民会議では、自死遺児（自殺により親権者を失った児童生徒）を対象に、入学・卒業祝、修学旅行費補助、クリスマスプレゼント等の援護活動を行っています。

対象は県内に居住し、県内の小・中学校又は支援学校の小・中学部に在籍する自死遺児です。

亡くなった親権者の性別等に関係なく、また、生計を担う方であったかどうかは問いません。

ただし、親権者の再婚や養子縁組等により新たに両親を得た児童生徒は除きます。

新規申請などのお問合せは、下記までご連絡ください。

【問い合わせ先】 大分県青少年育成県民会議事務局 TEL：097-506-3076

社会的自立に困難がある子ども・若者を支援します！

国は、「青少年が社会生活を円滑に営む上での困難がある子ども・若者を総合的に支援するため、地域の関係機関が連携して支援するためのネットワークづくりを推進しています。

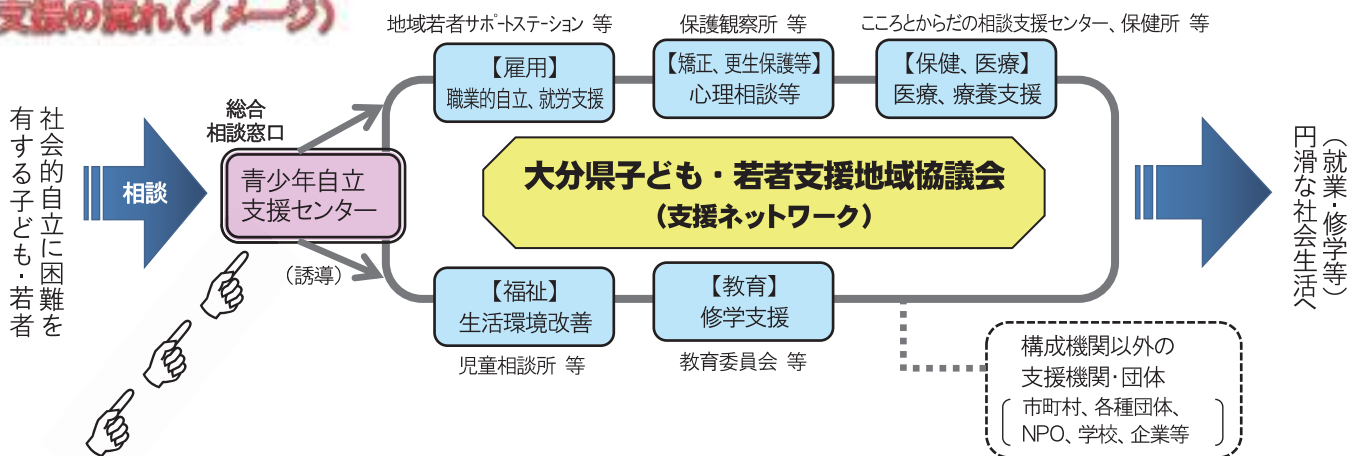
県では、平成25年3月、様々な分野における国や県、民間団体等の支援機関・団体で構成する「大分県子ども・若者支援地域協議会」を設置し、支援ネットワークの強化を進めています。

大分県子ども・若者支援地域協議会の構成機関・団体

(H30年3月現在)

国の機関	大分家庭裁判所／大分保護観察所／大分少年鑑別所／大分刑務所／中津少年学院／大分労働局
県の機関	私学振興・青少年課／障害福祉課／こども・家庭支援課／地域福祉推進室／雇用労働政策課 教育庁学校安全・安心支援課／警察本部少年課／保健所(6保健所)／こころからだの相談支援センター 中央児童相談所／中津児童相談所／教育センター／二豊学園／県立爽風館高等学校
公共相談機関	青少年自立支援センター／ジョブカフェおおいた／児童アフターケアセンターおおいた 大分県発達障がい者支援センター「イコール」／大分県地域生活定着支援センター おおいた地域若者サポートステーション
民間団体	子ども・若者とその家族を支援する団体(12団体) NPO法人大分ステップの会／NPO法人グッドイナフの会／NPO法人心の支援センター チャイルドラインおおいた／大分県保護司会連合会／ぱすたの会(おおいた「非行」と向き合う親たちの会) 星の会(不登校を考える親の会)／NPO法人共に生きる／NPO法人パワーウェブ日出 (公社)大分県社会福祉士会／ハートフルウェブ／(一社)いのちと暮らしのつながり研究所 かたつむり学舎

支援の流れ(イメージ)



青少年自立支援センター

悩み相談全般を受け付けます！

大分県では、不登校やひきこもり、ニートなど社会的自立に悩みを抱える青少年及びその家族を支援するための総合相談窓口として「青少年自立支援センター」を開設しています。

本人や家族の支援ニーズ等に応じて適切な支援先につなぎます。また、平成30年度から、社会的自立のための支援プログラムを実施します。

相談は **無料** です。悩みごとがあれば、お気軽にご相談ください。

まずは ☎ **097-534-4650** にお電話ください。
(通話料はかかります)

- 相談内容 ▶ 不登校、ひきこもり、ニート等青少年の悩み相談全般
- 相談時間 ▶ 月曜日～土曜日 9:30～17:30
- 所在地 ▶ 平成30年4月下旬頃、移転予定
- 現在 ▶ 大分市東春日町 17-19 大分ソフィアプラザビル 4階
- 移転後 ▶ 大分市中央町 1丁目 2-3 KNTビル [★印の場所]

